

ORANGE



入江波光《杏咲く頃》 1926(大正15)年

作品介绍 入江波光《杏咲く頃》

1918(大正7)年1月、文部省美術展覧会のありかたに不満を抱いていた京都の若い気鋭の画家たち、小野竹喬、土田麦僊、村上華岳、野長瀬晚花、神原紫峰の五名は、新しい時代の日本画の創造を目指して国画創作協会を結成、主宰することを発表し、同年の11月、第一回の展覧会を東京と京都で開催した。入江波光(1887~1948)は、上記の画家仲間たちから勧誘を受けながらも、実績がないことを理由にその結成の一員には加わらなかった。しかし、第一回展に出品して国画賞を受賞した後は同会の活動をともにして活躍し、同会を代表する画家の一人となる。

《杏咲く頃》では、西洋の古画を想起させる霞がかかった光景に、春愁ともいえるような切ない情感が表出される。1922(大正11)年に滞在した、北イタリアで接した中世の絵画への憧れと、波光特有の詩情とが画面で美しく結びついている。

(学芸員 三谷 渉)



共催した平山郁夫美術館の平山助成館長による記念講演会



展示風景(展示室5)

REPORT 世界遺産登録10周年記念特別展

田辺市立美術館 「平山郁夫 一熊野路を描く」

田辺市立美術館では、ユネスコの世界遺産に登録されて10年を迎えた当地の参詣道を描いた現代の代表的な画家として、平山郁夫(1930~2009)を取り上げ、「平山郁夫一熊野路を描く一」と題した展覧会を2月14日から3月22日にかけて開催しました。

この展覧会は、平山郁夫の生誕地、瀬戸内海の生口島(広島県尾道市瀬戸田町)にある平山郁夫美術館との共催で行い、内容について二つのテーマを設定しました。一つは個展の基本的なねらいとなるものですが、平山郁夫という画家の生涯と芸術をしっかりと伝えることです。そしてもう一つが、画家と当地との関係に焦点をあてることでした。この趣旨に沿って、展覧会を「平山郁夫の生涯と仏教」、「平山郁夫とシルクロード」、「平山郁夫と熊野路」の三章で構成することとし、約60点の作品を展観しました。

展覧会の初日には平山郁夫美術館の館長で、画家の実弟である平山助成さんにお越しいただいて講演会を開催しました。会の最後に、この日ご来館くださった妻の美知子さん、長男の廉さんのスピーチもいただくことができて、聴講された方々にはたいへん喜ばれました。また会期中には平山郁夫美術館と当館、それぞれの担当学芸員が展示解説をおこなって、理解を深めていただくことにも努めました。

平山郁夫が1991(平成3)年に当地を取材した際に制作されたテレビドキュメンタリー番組の録画も展覧会の準備中に見つかり、制作局(RKB毎日放送株式会社)のご協力によって研修室での上映が可能となって、作品の背景となった平山の活動と思考をより具体的に伝える資料も紹介することができました。

(学芸員 三谷 渉)

熊野古道なかへち美術館 「森に棲む 色・音・形」

熊野古道なかへち美術館では、昨年度一年間を通じて当地「熊野」をテーマとした展覧会を開催しました。その最後を締めくくったのが1月24日から3月15日にかけて開催した本展覧会です。「谷内庸生+COYO インスタレーションによる熊野の森へのオマージュ」の副題を添えたこの展覧会では、紙彫刻作家の谷内さんと映像作家のCOYOさん、それぞれが熊野の森から得たインスピレーションによって作品を制作し、その二人によってつかみ取られたさまざまな熊野の断片がコラボレーションで一つになり、美術館全体が熊野を讀んだ表現でみられる空間となりました。

今回の制作にあたって寄せていただいた、お二人のコメントをここに紹介します。

(学芸員 山本 泰代)

白く明るい場所にいる。
川が流れていて、白い舟に白い動物たちが乗り、さらさらと美しい音楽を奏でている。
それらは紙で出来ている様に見える。
その時、川と同じ方へ行く人とすれ違い、ニヤリと笑い分けられた。
彼は半人半獣であった。

これは母がみたという夢の光景の一部だ。

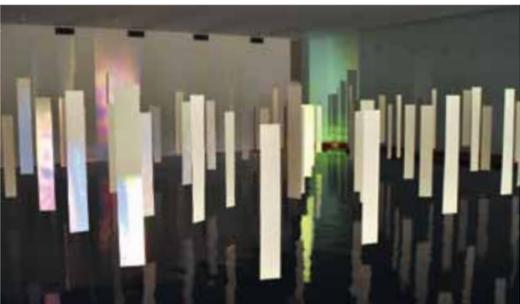
展覧会の企画の話をいただいたのは、その夢の話の後のことで、川は光、紙のようにみえる動物達は谷内さんの作品だろうかと考えてしまった。

夢の光景は、わたしが後に見る光景のようでもありうるが、また違って見えていただろう。
夢が現実、しかし現実が夢のように、誰かのヴィジョンは、また誰かのヴィジョンになってゆく。ちよつとした「不思議」は緩やかに循環し、異なる時間も場所も相容れる。
熊野は、わたしにそういう存在であり続けている。

心に留まる景色を知ってゆくなかに見つけた表現は、「不思議」の存在が確かに在ることを教えられる。

限り無く生の源に近く、限り無く死の源に近い、透明な秘密。
わたしは、その存在を信じている。そして繰り返し出会うことを夢みている。

(COYO)



展示風景(展示室)

編集後記

田辺市立美術館広報紙ORANGEをお読みいただきありがとうございます。平成26年度はどの展覧会も大変好評をいただいて、これほど大勢のお客様をお迎えするのは初めてでした(私が美術館に異動してきてちょうど3年です!)。世界遺産登録10周年を記念した特別展は本当に大忙しで、あっという間に年度末になりました。新年度は本館・分館同時開催の展覧会でスタートします。その様子はまたレポートでお伝えしたいと思います。次号もぜひご覧ください。皆様のご来館をお待ちしています。(担当m.m.)

田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.22

編集・発行：田辺市立美術館 / 熊野古道なかへち美術館
発行年月日：平成27年4月1日

田辺市立美術館

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393
http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/



春日美術展 田辺市立美術館

春日美術展 田辺市立美術館

1. 田辺市合併10周年記念特別展 コリナツヨシのあゆみ1 墨に彩られた世界 ~文人画・禅画・南画~
市町村合併により田辺市立美術館と熊野古道なかへち美術館が本館・分館の二館体制でスタートしてから10年となることを記念し、両館がこれまでで収蔵してきた作品を本館・分館の同時開催で紹介いたします。第1部は本館コレクションの後の一つである文人画や近世書画と、分館コレクションの主軸の一つである渡瀬斎雲の作品を展観します。

2. 特別展 ミロ展 ~スペイン巨匠の版画~
パブロピカソやサルバドールダリなどともに20世紀スペインを代表する美術家、ジョアン・ミロ(Joan Miró, 1893-1983)の芸術を、版画作品を通じて紹介します。ミロは絵画だけでなく、彫刻や陶芸、舞台芸術など幅広い造形活動を展開しましたが、特に版画の制作は35歳のときに本格的に手掛けた以来、生涯に亘って実験と探究が繰り返された最も興味深い創造の分野となっており、第一作から晩年の作品まで約150点に亘りその軌跡を振り返ります。

3. 田辺市合併10周年記念特別展 コリナツヨシのあゆみ2 色彩が魅せる世界 ~油彩画・水彩画・近代日本画~
市町村合併により田辺市立美術館と熊野古道なかへち美術館が本館・分館の二館体制でスタートしてから10年となることを記念する展覧会の第2部です。ここでは両館のコレクションの中から近代の絵画に展開した色彩表現の魅力を紹介します。

1. 田辺市合併10周年記念特別展 コリナツヨシのあゆみ1 墨に彩られた世界 ~文人画・禅画・南画~
市町村合併により田辺市立美術館の分館として熊野古道なかへち美術館が新設されたスタートしてから10年となることを記念し、両館がこれまでで収蔵してきた作品を本館・分館の同時開催で紹介いたします。第1部は本館コレクションの後の一つである文人画や近世書画と、当館コレクションの主軸の一つである渡瀬斎雲の作品を展観します。

2. 館蔵品展 渡瀬 一スツチから広がる世界
スツチ旅行は渡瀬の制作の原点であり、多くの絵巻と画題をここから得ています。特にアメリカ滞在期間には国内では描いていなかったようなものも対象にして記録を残し、新しい時代の南画を構築しました。スツチや画題から、渡瀬の芸術をあらためて見直す機会があります。

3. 田辺市合併10周年記念特別展 コリナツヨシのあゆみ2 色彩が魅せる世界 ~油彩画・水彩画・近代日本画~
市町村合併により田辺市立美術館と熊野古道なかへち美術館が本館・分館の二館体制でスタートしてから10年となることを記念する展覧会の第2部です。ここでは両館のコレクションの中から近代の絵画に展開した色彩表現の魅力を紹介します。

4. 館蔵品展 映く一雑賀清子のスツチより
雑賀清子が記録した当地の自然を、水彩画と点描作品で紹介いたします。樹木の研究者による解説も添えて案内します。
★美術館開放講座も予定しています。



春日美術展 田辺市立美術館

春日美術展 田辺市立美術館

墨による絵のなりたち

墨は太古からアジア地域で文字の記録、またはイメージを伝えるための道具などとして幅広く用いられてきました。絵画においては、中国・唐代に盛んであった宗教画や人物画の制作で行われていた、墨の描線による白描画に彩色をほどこす技法が主流でしたが、唐代後半には山水画を描くための方法として、墨の描線だけでなく墨の濃淡やにじみ、かすれなどを用いることで、面や形、明暗を表現する技法が成立しました。これが水墨画と呼ばれるものです。

日本には鎌倉時代の中ごろ、禅宗とともに多くの中国絵画が流入し、なかでも道釈人物画や祖师像など禅の精神をあらわす手段として描かれた水墨画は禅宗寺院を中心に広まっていきます。室町時代には足利家が禅宗を庇護したことにより禅文化や五山文学が栄え、

如拙、周文、雪舟など五山の僧を中心に山水風景を主とする「詩画軸」と呼ばれる水墨画が多く描かれ、盛んとなっていきました。

一方、文人画は江戸時代中ごろに長崎を通じて日本にやってきました。それ以前にも室町時代には中国の禅僧や画家たちにより濃彩の仏画や水墨画などが多く流入してきていましたが、このとき黄檗僧によってもたらされた中国の新しい文物は上方や京の知識人たちに大きな影響を与えました。中国文化への強い憧れを持っていた彼らは文人の絵、職業画家の絵の区別なく貪欲に吸収していき、日本独自の文人画というものを形成する先駆として大きな役割を担っています。

その後、中国文物や詩画への興味の舞台は町人層をはじめとする民衆へと広まっていきました。文人画を描くことを自己の研鑽や研究

のために行うものなども現われ、江戸中期から後期にかけて文人画は隆盛を極めることとなります。狩野派などの絵師をはじめとする職業画家が行う水墨表現に対して、中国文化への憧れに端を発している日本の文人墨客たちが行う水墨表現は、それが山水画であっても花卉花鳥図であっても、作画技術にこだわらない自由な発想で表現されるものでした。

幕末から明治にかけて、文人画は依然として大きな人気を保っていました。幕末の志士たちが文人画風の

スタイルで描くことや、描かれた画を好んだことがその要因でした。しかし、これが文人画の大衆化を招くこととなり、文人としての知識や教養、作画の技術に関係なく誰もが描くようになりました。その結果、西洋絵画の流入の中で行われたフェノロサや岡倉天心たちによる、伝統的日本絵画復帰の流れのなかで「真の絵画の敵」として文人画は攻撃され、衰退の一途をたどることになります。

明治以降、近代日本画壇の中心に文人画が躍り出ることはありませんでした。しかし、そのようななかでも富岡鉄斎のように近世以来の古画習熟という伝統を継承し、後に登場する多くの画家たちに影響を与えた人物もあらわれます。彼は同じ文人画家の田能村直入と「日本南画協会」を設立、これは後に全国組織の南画団体である「日本南画院」へとつながっていきます。

大正に入ると従来見られなかった新しい南画が発表されるようになりました。それは、南画の精神を引継ぎ、その技法や画風を参考にしながらも、日本だけでなく西洋の風物をもモチーフとし、墨と色彩の用法や描法に工夫をこらした独自の表現方法で制作する画家たちの出現によるものでした。

(主任 辰巳 充)



池 大雅東坡雪鶴図(国) (公財 藤村藻学会蔵 田辺市立美術館寄託)



渡瀬凌雲(墨) 1932(昭和7)年 熊野古道なかへち美術館蔵

絵画と出会う「この一点!」

館藏品展「凌雲 –スケッチから広がる世界」

【会期】7月18日(土)～8月30日(日)

自ら「風景画家」と称した渡瀬凌雲にとって、スケッチ旅行は制作の原点でした。国内外様々な土地を訪れては多くの経験と画題をそこから得ましたが、とりわけ沢山のスケッチや写真を遺した約一年間の滞米期間は、後に凌雲の作風を大きく変える分岐点となりました。アメリカではこれまで描けなかったようなものも対象にして記録を残しており、新しい時代の南画を模索していたことがうかがえます。一方スケッチブックの中には、観光旅行者の絵日記のようなものも含まれ、本画には出てこない凌雲の側面も興味深くみることができます。ハワイは海外旅行をする日本人の中で今なお筆頭にあげられる観光地ですが、凌雲にとっても、また新しい世界を前に希望に胸を膨らませて降り立った場所であったに違いありません。下図のスケッチは初めて見たワイキキの風景を記念に描いたものです。スケッチの左下に見える日付11月15日は、アメリカ、ハワイ到着の第一日目です。この日にホノルル美術館と植物園を見学し、風景も写生したと、帰国後凌雲が作成した「訪米概記」には記されています。画家として大きく変化していく一年がここからスタートしました。

(学芸員 山本 泰代)



渡瀬凌雲(ダイヤモンドヘッド ワイキキ) 1958(昭和33)年

ORANGE vol.21の解答

《南紀巡覧図》の旧蔵者

前号の「絵画と出会う「この一点!」」では《南紀巡覧図》の旧蔵者についての問題を皆さんにお出ししていました。その解答です。

《南紀巡覧図》上巻・下巻の巻末にそれぞれ「兼葭堂蔵」の款記と蔵書印(右の図版)があることから、この図巻二巻はいずれも大坂で酒造業を営んでいた町人学者、コレクターであった木村兼葭堂(1736-1802)が旧蔵していた作品であることが分かります。(ちなみに、会場の解説パネルに「脇村義太郎氏旧蔵」と表記していたため誤解された方もいらっしゃると思いますが、この方は前旧蔵者であって、問題にあった近世の文人画家ではありません。)

兼葭堂は商業のかたわらで国内・国外を問わずぼう大な文物を収集・研究していたので、彼の家はその情報を求めて全国各地から多くの文人墨客や学者たちが集まるサロンとなっていました。本図の作者や手に入れた経緯はまだ判明していませんが、この作品もそうしたなかで自身の博物学的な興味をもとに手に入れた作品の一つだったのではないかと考えられます。

(主任 辰巳 充)



下巻巻末



上巻巻末

新収蔵作品について

昨年度は3点の作品のご寄贈がありました。すべて田辺市内の方がご所蔵されていたもので、一昨年の当人の逝去、遺言によってご遺族からご惠贈いただいたものです。

入江波光(1887-1948)《杏咲く頃》(1926年/47.6×56.3cm/絹本・軸装 ※表紙に作品紹介を掲載)、竹内栖鳳(1864-1942)《水村雨霽》(44.0×58.6cm/紙本・軸装)、稗田一穂(1920-)《涉禽》(1987年/53.5×41.2cm/紙本・額装 ※右の図版)の3点で、いずれも近現代の日本画の表現を革新した重要な画家たちの充実した作品です。入江波光、竹内栖鳳の作品は初めての収蔵となるものです。

またこの他に、当市が所蔵している作品を当館の所蔵品として登録する管理換えが2件ありました。鍋井克之(1888-1969)の作品、《円月島(紀州白浜温泉)》(1933年/51.2×59.0cm/油彩・カンバス/額装)と、堂本印象(1891-1975)の作品、《阿弥陀三尊像》(1965年/各127.0×64.0cm/紙本・額装・三面 ※当市奇絶峡に刻されている磨崖仏の原画)です。これまでも当館で保管し、展示も重ねてきた作品で、今後も良好な状態の維持と紹介に努めたいと思います。

(学芸員 三谷 渉)



稗田一穂(涉禽) 1987(昭和62)年

ジョアン・ミロ ～スペイン巨匠の版画～

ジョアン・ミロ(1893-1983)を、パブロ・ピカソやサルヴァドール・ダリらとともに、20世紀の美術の世界を押し広げたスペインを代表する作家の一人に挙げることは異論のないところだろうと思います。ピカソやダリと同様に、ミロも幅広い造形表現に才能を発揮しましたが、版画は特に重要な制作の分野でした。生涯に2500点以上の作品を発表し、1954年のヴェネチア・ビエンナーレでは版画大賞を受賞しています。

詩を愛好し、詩人たちと親交を結んだミロは、数多くの詩画集にたずさわりました。そのための制作が、版画の表現を独特のものにし、魅力的なものにする大きな要素となっています。

35歳のときに手掛けた最初の版画作品も、リーズ・イルツの詩集『一羽の小さなカササギがいた』のための挿絵8点でした。以後もトリストラン・ツアラ、ポール・エリュアール、ジャック・ブレベールといった、同時代の詩の表現を切り開いていった詩人たちとの共同制作のなかで、ミロは自身の版画の技法をこらし、実験し、その表現を展開して豊かなものにしてゆきました。

このミロの版画の世界を紹介する展覧会を、今年の7月18日から8月30日にかけて当館で開催します。ミロの詩に満ちた表現に接することのできる、絶好の機会になるかと思えます。ご来館をお待ちしております。

(学芸員 三谷 渉)



約150点の版画作品を展覧する今夏の「ミロ展」の図録

平成27年度

田辺市立美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H.28											
施設修繕のため休館											
①田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみI 墨に彩られた世界～文人画・禅画・南画～											
【前期】5/24(日) 5/29(金)～6/28(日) 【後期】6/2(土)～6/28(日)											
9/19(土)～11/8(日)											
③田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみII 色彩が魅せる世界 ～油彩画・水彩画・近代日本画～											
展示替のため休館											
★美術館開放講座を予定しています											

熊野古道なかへち美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H.28											
施設修繕のため休館											
①田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみI 墨に彩られた世界～文人画・禅画・南画～											
【前期】5/24(日) 5/29(金)～6/28(日) 【後期】6/2(土)～6/28(日)											
9/19(土)～11/8(日)											
③田辺市合併10周年記念特別展 コレクションのあゆみII 色彩が魅せる世界 ～油彩画・水彩画・近代日本画～											
展示替のため休館											
★美術館開放講座を予定しています											

④館藏品展
咲く～糺賢清子のスケッチより

2/6(土)～3/21(月・祝)